

慈光

第74号
2020.1.1発行

宝巖院
川口市安行慈林954
TEL048(281)3321
FAX048(281)3305



巡礼・遍路とは何か 巡礼・遍路へのいざない

多くの皆さまが旅行先などで神社仏閣を観に行くことがあると思いますが、それはあくまでも副産物として、つまり目的地の近くにたまたまあるから行く程度ではないでしょうか。しかし、タイトルにある「巡礼・遍路」とは、神社やお寺をお参りすることが目的のもので、今回は皆さまに「巡礼・遍路」に興味を持っていただき、当寺院で毎年五月に開催されている「巡礼・遍路」の行事に参加していただくきっかけにしたいと思っています。

さて、先ほどから「巡礼・遍路」と同列に書いていますが、厳密に言えば意味合いが異なります。「巡礼」とは日本各地にある観音霊場（西国、坂東、秩父、最上、etc.）をお参りすることを指します。一方の「遍路」とは、四国八十八か所霊場をお参りすることです。つまり、「遍路」という言葉

は八十八か所参りの場面ではなく使われたいということですが、それでは次に起源を見てみましょう。まずは「巡礼」からです。

「巡礼」の最古といわれるのが西国三十三観音霊場で、大和の長谷寺にいた徳道上人という僧が夢の中で閻魔様から「世の人々の苦しみを救うために、三十三ヶ所の観音霊場を作り、人々に巡礼を勧めなさい」と言われ、三十三ヶ所の寺院を整備したことが西国霊場の始まりです。しかしその当時は、多くの民衆からは霊場を巡ることの機能を信用されず、西国霊場は流行りませんでした。しかしその後、花山法皇という方が、この西国霊場を参拝し、二つのお寺ごとに「巡礼歌」という和歌を残して回りました。時の天皇の方が西国を回り、和歌を残したことで、多くの民衆の間で西国霊場を回ると苦しみから救わ

れるのかもしれないという機運が高まり、現在まで西国霊場のみならず、各地の観音霊場が多くの参拝者の信仰を集めているのです。

また、ここで「巡礼歌」という言葉が出てきたので簡単に説明したいと思います。花山法皇が西国巡礼の時に残していった和歌が「巡礼歌」と呼ばれるのですが、後の時代に、この和歌に節を付けて読むようになったのが、「ご詠歌」の始まりと言われています。言い換えれば、ご詠歌をお唱えしている方は知らずのうちに巡礼の事前準備をしていると言えるのかもしれません。

それでは次に「遍路」の歴史を見ていきましょう。「遍路」は四国の八十八の寺院を回ることですが、「遍路」とはお大師さま、つまり弘法大師空海上人の足跡を辿る巡礼だと考えて頂ければ良いと思います。お大師さまは、四国でお生まれになったとされ、僧侶になる前に四国の山々や寺院で修行を積んでいたとされています。その修行の場が八十八ヶ所あるわけです。実は詳しい起源というのは分かっていませんが、お大師さまが修行されていた八十八の地を巡ること、お大師さまの力を少しでも授かりたいと願う多くの人の気持ちから



「遍路」が起こったのだらうと思います。「遍路」の際にとっても大事なキーワードがあります。それは「同行二人」という言葉です。これは「遍路」をしている時は、お大師さまと二人連れ、という考え方です。「遍路」をしている時は、常にお大師さまが手を引き、導いてくださっているという考え方は、この考えをわかり易く表現しているご詠歌があります。同行二人のご詠歌（遍照）
あな嬉し 行くも帰るも止まるも
吾れは大師と 二人連れなり
南無大師 南無大師遍照尊
(6ページに続く)

初薬師大護摩修行(ご縁日)

令和2年1月8日 午後12時半から法話 13時より護摩修行

慈林薬師大護摩

慈林薬師では毎月8日ご信徒の諸願成就を祈禱する御護摩を修法しています。御護摩の利益は、数限りなく古来多くの方から信仰をいただいております。

御護摩とは
薬師如来を御本尊とし、その前に壇を設け、いろいろな供物を捧げ、護摩木という特別な御焚いて御本尊に祈る真言宗の秘法です。御護摩の火は智慧を象徴し、まきは煩惱を表わしています。御護摩の祈禱を通じてまきという煩惱を薬師如来の智慧の炎で焼きつくし、ご信徒とともに、ご信徒の願いが清浄な願いとして高まり成就することを祈ります。

◆お護摩料◆

特別大護摩料	30,000円以上
大護摩料	10,000円
護摩料	5,000円
護摩料	3,000円

◆護摩願意一覧◆

家内安全	工場安全
商売繁盛	作業安全
身体安全	工事安全
厄災除	旅行安全
心願成就	開運満足
安産満足	入学成就
身上安全	合格成就
火難消除	学業成就
災難消除	就職成就
当病平癒	交通安全
無病息災	必勝祈願
手術成就	方災消除
負傷平癒	六三除
社運隆昌	虫封
事業繁栄	御札

(1ページより続く)
道を進んでいる時も、戻っている時も、また立ち止まっている時も、どんな時でもお大師さまはそばに居てくださるという内容です。ただこの詩は、お遍路の時だけではなく、亡くなられた後の浄土の世界への旅路の時にも、日

常生活においても、いつでもお大師さまはそばに居てくださるという考え方もできると思います。
さて、長々と「巡礼遍路」について書いてきましたが、当寺院で毎年五月に行っている檀信徒の方を連れたの巡拝が令和二年度は約十年ぶりの「遍路」四国八十八ヶ

第二回慈林薬師宝蔵院 体験夏まつり開催報告

所参りを計画しております。一度はお遍路をしてみたいという方もいるのではないかと思います。今回は「巡礼遍路」について紹介させていただきますました。一人で参加するのが不安な方はご友人などをお誘いになり、ご参加頂ければと思います。

詳しい日程は、お寺にお越しになるか、電話でのお問い合わせ、またはホームページをご参照いただきますと思います。

(憲寿記)

去る令和元年八月二十五日(日)に第二回慈林薬師宝蔵院体験夏まつりを行いました。今回も初回同様、百数十名の方がお越しになりました。この夏まつりのメインイベントは、「流しそうめん」です。お寺の役員の方にお願ひし、七、八メートルの長い竹を使った本格的なもので、大人も子供も楽しめ、さらに写真映えもするものです。「流しそうめん」以外にも本堂では「四国八十八ヶ所お砂ふみ」、



(流しそうめんを行う参加者たち)

薬師堂では宝物展示、そして会館では年ごとに変わるお寺でできる体験コーナーも充実しています。今年は、数珠作り、写経・写仏、スチレン版画を行いました。また近年頻発している災害を意識し、会館ホールにて役員の方の協力のもと、防災グッズの展示なども行いました。

さまざまな体験や見学を通して、お檀家さんだけでなく、ご近所の方にとってもお寺が身近になり、親しみを持ってもらえるように今後もこのような活動を続けていきますので、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。